



2010 年全日本ヨットマッチレース選手権大会 イン 葉山
2010 All Japan Yacht Match-Race Championship in Hayama

20-23 November, 2010

Sailing Instruction (Ver. 1.0)

略語

PC - プロテスト コミッティ	OA - オーガナイズング・オーソリティ(主催団体)
RRS - セーリング競技規則	IJ - インターナショナル・ジユリー
RC - レース・コミッティ	NA - ナショナル・オーソリティ
SI - 帆走指示書	NoR - レース公示

1. ルール

本大会には以下のルールを適用する。

- (a) RRS(2009-2012)に規定されたルール。付則 C を含む。
 - (b) ハンドリング・ボーツ(SI のアベンディックス C)。これは練習中にも適用される。クラスルールは適用しない。
- NoR と矛盾が生じた場合、本帆走指示書が優先する。

1.2 削除

1.3 削除

- 1.4
RRS 41 に以下を追加する。
- (e) 落水したクルーメンバーを救助し、艇上に戻すための援助。救助のために提供される援助は最寄の(艇からの)援助である。

1.5 RRS C3.1 のスタート信号の表を以下に変更する。

時刻(分)	視覚信号	音響信号	意味
6	F 旗掲揚	1 声	注意信号
5	F 旗降下	1 声	予告信号
	数字旗掲揚*		
4	P 旗掲揚	1 声	準備信号
2	青色旗もしくは 黄色旗または 両方の旗の掲揚**	1 声	スタート前のエントリー タイムの終了
0	予告信号と 準備信号降下	1 声	スタート信号

注意：*、**印の注記は RRS の通りである。

1.6 リタイア

スキッパーが RC にリタイアを通告し、スタート海面に来ないかレース海面を離れたことが明らかな場合、RC はアンパイアと協議の上、そのスキッパーの得点を0点、対戦相手の得点を1点として、ペアリング・リストを変更することができる。本項は RRS C8.5 を変更している。

2. 参加と参加資格

- 2.1 OA により招待されたスキッパーのみが、大会に参加する資格がある。招待の基準は NoR 5 の通りである。参加を認められたスキッパーは SI アベンディックス A に示される。
- 2.2 参加資格を持続するために乗員は、NoR に指定された日までに参加料10万円とダメージ・デポジット2万円の支払を完了し、NoR 4.1 に示された時間に乗員の登録と計量を完了させなければならない。ただし OA が延長した場合を除く。
- 2.3 ダメージ・デポジットは、個々の事故に対するそれぞれのスキッパーの責任限度額ではない。大会期間中にダメージ・デポジットから差し引きが行われた場合、スキッパーは、参加資格を維持するためにダメージ・デポジットの額を元の金額に戻すことを求められることがある。
- 2.4 各スキッパーは乗艇したボートのダメージや損失について責任がある。ただし、OA によって別に責任分担が割り当てられた場合はそれに従う(18 項参照)



2.5 マッチの予告信号後、登録されたスキッパーは、緊急の場合を除き、舵を離してはならない。

2.6 登録されたスキッパーが大会を継続できなくなった場合、OA はオリジナル・クルーメンバーを代理として認可することができる。

2.7 登録されたクルーメンバーが大会を継続することができなくなった場合、OA は交代クルー、一時的な交代、またはその他の調整を認可することができる。

3. 競技者との連絡

3.1 競技者への通告は、レース本部付近に設置された公式掲示板に掲示される。

3.2 陸上で発する信号は、音響信号 3 声とともにレース本部付近に掲示される。

3.3 スキッパーは、OA によって許された場合を除き、11 月 20 日 10:00 から行われる最初のブリーフィング (艇長会議とアンパイア・ミーティング)に参加しなければならない。ブリーフィング会場はレース本部である。

3.4 アンパイアとの最初のミーティングは、最初の艇長会議に引き続いて行われる。

3.5 艇長会議は毎日朝夕の 2 回行われる。開催時刻は NoR 4.1 によるが、夕方のミーティングはレースの進行具合によって変動することがある。ミーティング会場はレース本部である。

3.6 スキッパーは彼らのレースがあった日に、記者会見に出席することを求められることがある。

4. 帆走指示書の変更

4.1 陸上で行われる SI の変更は、影響を及ぼすレースの最低 60 分前に掲示され、RC と PC の代表者により署名される。

4.2 削除

4.3 海上で変更が行われたときは、音響信号 3 声とともに第 3 代表旗を掲揚することによって信号が発せられる。アンパイアは、口頭か書面のいずれかでこのことを伝達することができる。

5. ボートとセイル

5.1

(a) 本大会は、ヤマハ 30S クラスのボートで帆走される。

(b) 使用すべきセイルは RC により割り当てられる。

(c) 競技者は、シリーズ中に、スポンサーの要請を満足するためにセイルを交換することを要請されることがある。このことは救済の要求の対象とはならない。これは RRS62 の変更である。

5.2 用いなければならないセイルの組み合わせは、注意信号以前に、RC ボートのパウから信号が発せられる。信号は次のことを意味するものとする (連続音響信号を伴う)。

信号 用いなければならないセイルの組み合わせ

オレンジ旗 そのフライトのすべての艇はスピネーカーおよびスピンプールを使用してはならない。

黒色旗 そのフライトのすべての艇は、メインセイルをワンポイントリーフしなければならない。

信号なし 与えられたセイルを自由に使用してよい。

5.3 その他の制限または指示は、艇に対してアンパイアから口頭でなされることがある。第 3 代表旗は必要としない。

5.4 RC は各ステージで使用する艇を決めることができる。

5.5 削除

6 艇の識別と割り当て

6.1 艇は、各艇に記載されたボートナンバーにより識別される。

6.2 メインセイルには、OA により提供された文字を表示することを求められることがある。

6.3 RC の決定に従って、艇は毎日の夕方のミーティング時および各ステージの開始前に、抽選によって割り当てられる。

6.4 艇はペアリング・リストとレース・スケジュールに従って交換される。



7 クルー・メンバー、人数と体重
7.1 登録できるクルー人数 (スキッパーを含む) は最大 6 名である。7.2 の制限体重内であればクルーは交代してもよい。ただし、第 2 レース以降のクルーの人数は第 1 レースに乗艇した人数より多くても少なくてもいけない。また、クルーを交代する際は事前に RC の了解を得なければならない、交代に要する時間はスタート延期の要求の対象とはならない。(RRS62 の変更)
7.2 少なくともショーツ(パンツ)とシャツを着用した状態でのスキッパーを含む乗員の合計体重は 350kg を越えてはならない。この計量は RC によって指定された登録 体重計測時に行う。計測は機器の誤差を考慮して、各自の表示体重より0.2kg を差し引いた数値を公式体重とする。
7.3 削除
8 イベント・フォーマットとスタートのスケジュール
8.1 イベントフォーマットは SI のアペンディックス B に記される。フライトで帆走するマッチは、RC ボートよりスタートする順に示される。
8.2 削除
8.3 レース日は 11 月 20 日から 11 月 23 日まで予定されている。
8.4 レース最終日で、「注意信号」が発令されるもっとも遅い時刻は 15 時とする。
8.5 それぞれの日にレースをするマッチの数は、RC の決定による。
8.6 (a) RC は、現在の状況または予定されている残りの時間ではマッチの残りを続けようとするのが実行不可能であると判断した場合、ステージまたは大会を終了、またはフォーマットを変更することができる。初期のステージは、その後のステージを行うために終了することがある。 (b) RRS C10.3(b)に以下を追加する。 「1 回のラウンドロビンが完了する前に終了した場合、最高得点はそれぞれの競技者と帆走したマッチにつき平均の得点を得たと決定されるものとする。ただし、1 名またはそれ以上の競技者が予定されたマッチの 1/3 未満しか完了しない場合を除く。その場合、全体のラウンドロビンが無視されなければならない、必要な場合には大会が無効と宣言される。」
8.7 レース日の最初の注意信号発令予定時刻は、初日は 11:20、その他の日は 09:00 である。
8.8 引き続き行われるそれぞれのフライトは、実行可能な限り速やかに前のフライトに引き続いて開始される。これは、前のフライトの最終マッチがフィニッシュすることを必ずしも要しない。
8.9 あるマッチが予定された時刻にスタートできない場合、次のマッチの信号とスタートは元の予定のままとし、スタートしないペアは空白のスタートのままとする。スタートシークエンスの旗は、空白のスタートに対しては掲揚されない。
8.10 ノックアウトシリーズで、あるシリーズの勝者が決定された場合、引き続き行われるスタートは、空白のスタートをなくすために前に持ってくるものとする。競技者には、アンパイアより口頭でそのことを伝える。
9 レース海面
レース海面は葉山マリーナの沖合いである。
10 コース
10.1 (a) コースの形状 (縮尺どおりではない)
マーク W
マーク L
スタートフィニッシュライン



(b) コース信号と帆走すべきコース

コース信号は予告信号と同時またはその前に RC ボートのバウに掲揚される。マーク W と L は、スターボード(右) 回航しなければならない。

信号	コース
信号なし	スタート- W - L - W - フィニッシュ
S 旗	スタート- W - フィニッシュ

(c) マークの説明

RC ボートはメインマストに JYMA の旗を掲げたボートである。

スタートフィニッシング・マーク、マーク W/L マークの形状と色は最初の艇長会議時に説明される。置き換えマークは上部に赤または緑の帯を巻いたボール状のマークである。

10.2 スタートフィニッシング・ライン

- (a) スタートフィニッシング・ラインは、スタートフィニッシュ・マーク(ピンエンド・マーク)のコースサイドと、RC ボート上メインマストのコースサイドとの間の直線である。
- (b) RC ボートには、ラインでつないだブイを取り付けることがある。艇は、常にこのブイとRC ボートとの間を通過してはならない。このブイは、RC ボートのグラウンドテークルの一部である。

10.3 コースの制限

ローイング中であるとアンカリング中であるとかかわらず、レースエリア内にいるローボートの周囲 10m の範囲内は障害物とみなす。レース中、艇はこの範囲内を帆走してはならない。アペンディックス E-1 参照。
この項の指示にたいする違反は、艇による抗議の対象とはならず、RRS 8.2 によるアンパイアの処置の対象である。これは RRS C6.6 および C8.2 を変更している。

10.4 中止と短縮

- (a) RRS32 を削除して、以下の文と置き換える。RC は、スタート信号後、何らかの理由のために、実施できる場合はそのマッチのアンパイアと協議後、マッチの中止またはコースの短縮をすることができる。」
- (b) スタート信号後、レースの中止が決定された場合、RC ボートから音響信号 3 声とともに N 旗を掲揚する。数字旗とともに N 旗が掲揚された場合、その数字旗で示されたマッチのみが中止されるものとする。(レース信号の変更)
- (c) スタート信号後、コースを短縮するときは、最初の上マーク付近にいるマークボートから音響信号 2 声とともに S 旗を掲揚する。この場合、各艇は SI 10.1(b)で S 旗が掲揚された場合と同じコースを帆走しなければならない。数字旗の上に S 旗が掲揚された場合、その数字旗で示されたマッチ以降、同じフライトのすべてのマッチにこの項が適用されるものとする。(レース信号の変更)

11 損傷と修理のための時間

11.1 フライトの注意信号の前、またはフィニッシュ後の 2 分以内、または新しい艇に乗り替わった後の 5 分以内のいずれか遅い方までに、艇は、艇体やセイルの破損または損傷あるいは乗員の負傷を知らせるピンク旗を掲げ、次のスタートを遅らせるように求めることができる。その艇は、できるだけ早く RC ボートの風下に近づけて進み、そこにとどまらなければならない。ただし、別の指示がある場合を除く。また、この信号の掲揚を RC に認識させるのはレース艇の責任である。

11.2 修理に許される時間は RC の裁量とする。

11.3 フライトの注意信号発令後は、破損のためにマッチを延期または中止しない。ただし、SI 11.1 に定められているとおりに破損信号が掲げられた場合を除く。

11.4 RRS 62.1(b)が適用されている場合を除き、修理ができないことまたは注意信号後の破損は、救済の理由とはならない。この項は RRS 62 を変更している。

12 スタートの手順

12.1 削除

12.2 次のフライト番号は RC ボート上のホワイトボードに記載される。

12.3 注意信号は各フライトの最初のスタート信号の 6 分前に掲示される。これは RRS C3.1 を変更している。SI 1.5 参照。

13 風上マークの位置の変更

13.1 コースの変更は、置き換えマーク W を設置することにより行う。

13.2	引き続き行う変更は、元のマークへ戻す。
13.3	コース変更の信号 (RRS33 とレース信号の変更) (a) C 旗と色付きの旗は以下のことを意味する。「風上マークは置き換えられた。色付きの旗と同じ色の帯を巻いたボール状のマークを回航すること。」 (b) スタート後のコース変更を特定のマッチにのみ適用する場合、当該数字旗により指示するものとする。
13.4	信号船 (a) 最初のレグでコースの変更を行う場合、信号は適用されるそれぞれのマッチの準備信号とともにRC ボート上で掲揚される。準備信号は、一連の反復音響信号を伴うものとする。この信号はスタート信号とともに降下する。 (b) 最初のレグの後にコース変更の信号を発する場合、マークL 付近にいるRC ボートあるいはスタートフィニッシュライン上のRC ボートから掲揚するものとする。この信号はマッチの両艇がマークL を回航後適当な時期に降下される。
14	タイム・リミット 相手艇がコースを完了しフィニッシュした後、5 分以内にフィニッシュしない艇は DNF と記録される。この項は RRS 35 および A5 を変更している。
15	コーチボート どのチームもコーチボートを使用してはならない。
16	メディア、映像および音響 (a) OA はいつでも、メディアの人員と機材 (またはダミー) を積み込むことを求めることができ、また競技者にインタビューに答えることを求めることができる。 (b) レースをしない人員と機材の位置は RC によって決定され、口頭によってアドバイスされることがある。 (c) OA は、大会期間中に採集された映像 (肖像) と音響を無償で使用する権利を有するものとする。 (d) クルメンバー (スキッパーを含む) は、オーディオ・マイクロフォンを身に付けることを求められることがある。
17	賞 (a) 1 位から3 位のスキッパーには JYMA 賞が贈られる。 (b) 上位 4 名のスキッパーは、2011 年春に予定されている「くるるアジア・パシフィックマッチ」に招待される。 OA は、競技者の不品行、あるいは公式行事への出席を含むリーズナブルな要求に応じることの拒否に対して、賞を減じることができる。
18	行動基準とダメージの取り扱い基準
18.1	行動基準 (a) 競技者は、公式行事への出席や大会スポンサーへの協力、および RC への手伝いを含む、競技役員からのリーズナブルな要求に従わなければならない。また大会の名譽を傷つけるような行動をしてはならない。 (b) 競技者は、艇と装備を通常の注意とシーマンシップによって取り扱い、SI アペンディックス C と D に従わなければならない。 (c) OA は海上においては救命胴衣の着用を強く推奨するが、RC が特に命じるとき以外、救命胴衣を着用するか否かの最終判断は各艇によるものとする。 (d) この SI に対する違反のペナルティは、PC の裁量であり、それには大会へのこれ以上の参加からの排除、賞金の回収、デポジットの保留を含めることができる。
18.2	ダメージの取り扱い基準
18.2.1	以下のアイテムの紛失は理由のいかんに関わらず当該艇の責任とし、その損失はダメージ デポジットより差し引かれる。 (a) ウインチハンドル :12,000 円/1 本 (b) 抗議旗 (Y 旗) 5,000 円/1 本 (c) その他の旗 (識別旗、B 旗、損傷旗) :各 3,000 円/1 枚
18.2.2	今回使用されるレース艇が加入している艇体保険の免責額は 500,000 円である。
18.2.3	帆走指示書アペンディックス C (ハンドリング・オブ・ボーツ) に違反した結果生じたダメージは艇体保険適用の対象とはならない。当事者の負担である。
18.2.4	他艇との接触によって生じた、艇体、セイル、艀装その他備品のダメージは、その保険免責額内の修理費用を当事者間で負担するものとする (ダメージ デポジットから差し引かれる)。その負担割合は原則として当事者間の協議によるものとするが、当事者から要請があった場合 OA は PC のアドバイスを受けて、以下の割合によって分担することを勧告する。 (a) 権利艇・非権利艇が特定できる場合



権利艇 2 非権利艇 8

(b)権利艇・非権利艇が特定できない場合
当事者間で均等割合とする

18.2.5 前項に該当するダメージが生じた場合、各スキッパーは帰着後 30 分以内にコンディション・レポートの他に別書式のダメージ・レポートをレース委員会に提出し、口頭でその概要を報告する義務がある。

18.2.6 大会の進行を妨げるような重大なダメージを引き起こしたスキッパーに対して、レース委員会はダメージの修理が完了するまでの間、そのスキッパーの成績を不戦敗とする場合がある。

19 否認

大会に参加するすべての者は、自己のリスクで参加している。OA、その提携者および任命を受けた者は、原因が何であれ、損害、損傷、負傷または被った不都合に対する責任を否認する。

発行日 2010 年 11 月 8 日

帆走指示書 Version 1.0



SI APPENDIX A - LIST OF ELIGIBLE SKIPPERS

SI アペンディックス A 参加資格のあるスキッパー

	Name of skipper (Nationality) スキッパー氏名	Name of Team チーム名称	JYMA Ranking 1 Oct., 2010	ISAF Ranking 27 Oct., 2010
1	浜崎 栄一郎 Eiichiro Hamasaki		3	313
2	長堀 裕樹 Yuuki Nagahori		4	184
3	本吉 夏樹 Natsuki Motoyoshi		5	89
4	佐藤 麻衣子 Maiko Sato		8	221
5	藤井 麗 Urara Fujii		10	463
6	荒川 海彦 Umihiko Arakawa		12	256
7	吉田 工作 Kousaku Yoshida		13	320
8	村越 俊介 Shunsuke Murakoshi		15	429
9	戸谷 壽男 Toshio Toya		17	640
10	紙 麻里亜 Maria Kami		35	1583

SI APPENDIX B - EVENT FORMAT and SCHEDULE OF EVENT

SI アペンディックス B イベント・フォーマット & 大会スケジュール

1. 第 1 ステージ (ラウンドロビン)

各スキッパーは 1 回のラウンドロビンを帆走する。それぞれのスキッパーは互いに他のスキッパーと 1 度は帆走する。

第 1 ステージで 1~6 位のスキッパーは第 2 ステージ (ラウンドロビン)へ進む。

第 1 ステージで 7~10 位のスキッパーは第 3 ステージ (ラウンドロビン)へ進む。

2. 第 2 ステージ (ラウンドロビン)

第 1 ステージ上位 6 名のスキッパーは 1 回のラウンドロビンを帆走する。それぞれのスキッパーは互いに他のスキッパーと 1 度は帆走する。

第 2 ステージで 1 位および 2 位になったスキッパーは第 3 ステージ (ノックアウト)へ進む。

第 2 ステージで 3~6 位のスキッパーはその成績が最終成績となる。

2. 第 3 ステージ (ノックアウト& ラウンドロビン)

(ノックアウト)

第 2 ステージ (ラウンドロビン)の 1-2 位のスキッパーは互いに帆走し、2 点を先取したスキッパーを勝者とし、最終成績 1 位とする。敗者は最終成績 2 位とする。

(ラウンドロビン)

第 1 ステージ (ラウンドロビン)の 7~10 位のスキッパーは互いに他のスキッパーと 1 度帆走し、その成績に応じて最終成績 7~10 位とする。

OA は残された時間が残りのステージを消化するために不足していると判断した場合、以下のようなオプション、あるいはその他のオプションをとることができる。

オプション 1

第 3 ステージをカットし、第 1 および第 2 ステージの成績をもって最終成績とする。

オプション 2

第 3 ステージをカットし、第 2 ステージを以下のように変更する。

第 1 ステージで 1、2 位のスキッパーが 1-2 位決定戦、3、4 位のスキッパーが 3-4 位決定戦、5、6 位のスキッパーが 5-6 位決定戦を行う。各スキッパーは互いに帆走し、2 点を先取したスキッパーをそれぞれの順位決定戦の勝者とし、それをもって最終成績とする。第 1 ステージで 7~10 位のスキッパーはその成績を最終成績とする。

ペアリングリストは最初の艇長会議時に配布される。

Pairing List is handed at first skippers meeting.



大会スケジュール

11月20日(土)

- 09:00 レース本部オープン
- 09:05-10:00 受付 & 体重測定
- 10:00-10:40 最初の艇長会議/アンパイア・スキッパー・ミーティング
- 10:50 レース艇ドックアウト
- 11:20 最初の注意信号発令
- 17:00-18:00 アンパイア/スキッパー・ブリーフィング、艇長会議

11月21日(日)

- 08:00-08:10 艇長会議
- 08:20 レース艇ドックアウト
- 9:00 最初のマッチの注意信号発令
- 17:00-18:00 アンパイア/スキッパー・ブリーフィング、艇長会議
- 18:30-21:00 レセプション (菊水亭 参加費 1人 3,000円)

11月22日(月)

- 08:00-08:10 艇長会議
- 08:20 レース艇ドックアウト
- 09:00 最初のマッチの注意信号発令
- 17:00-18:00 アンパイア/スキッパー・ブリーフィング、艇長会議

11月23日(火・祝)

- 08:00-08:10 艇長会議
- 08:20 レース艇ドックアウト
- 09:00 最初のマッチの注意信号発令
- 15:30-16:00 アンパイア/スキッパー・ブリーフィング
- 16:00-16:30 表彰式
- 17:00 レース本部クローズ



SI APPENDIX C - HANDLING BOATS

SI アペンディックス C ハンドリング・ボーツ (艇の取り扱い)

<p>1 全般 艇をイコライズ (対等にする) するための適切な過程が踏まれている限り、艇のヴァリエーション (違い) は救済の理由とはならない。この項は RRS 62 を変更している。</p>
<p>2 禁止されるアイテム (品目) と行為 緊急時または損傷や負傷を予防するため、あるいはアンパイアが指示した場合を除き、以下の項目は禁止される。</p>
<p>2.1 提供された装備に何かを付け加えたり、省略したり、あるいは変更を施すことは禁止される。</p>
<p>2.2 当初意図された目的、または特に認められた目的以外に装備を使用することは禁止される。</p>
<p>2.3 RC の許可を得ずに装備を交換することは禁止される。</p>
<p>2.4 損傷を引き起こす恐れがあることが明らかであるようなセリング方法をとることは禁止される。</p>
<p>2.5 それ自体を使用している場合を除き、通常の保管位置から装備を移動することは禁止される。</p>
<p>2.6 前もって許可を受けずに艇に乗り込むことは禁止される。</p>
<p>2.7 必要とされるダメージ・デポジットなしで、あるいは RC の許可なしで、またレース日においては「AP」旗が陸上で掲揚されている間に、停係泊場所から艇を受け取ることは禁止される。</p>
<p>2.8 艇を上架したり、喫水線以下を清掃することは禁止される。</p>
<p>2.9 削除</p>
<p>2.10 スピネーカーの帆布にラインを取り付けることは禁止される。</p>
<p>2.11 たとえテルテールを取り付けるためであっても、セイルに穴を開けることは禁止される。</p>
<p>2.12 無線交信機 (携帯電話を含む) を使用することは禁止される。ただし、損傷の報告、RC の要請に対して返信する場合を除く。</p>
<p>2.13 バックスティ以外のスタンディング・リギンのテンションを調整することは禁止される。</p>
<p>2.14 メインシート、バックスティ、またはヴァングの調整にウインチを用いることは禁止される。</p>
<p>2.15 削除</p>
<p>2.16 リーフ・ラインをアウトホールとして使用することは禁止される。</p>
<p>2.17 フォア・セイルのシートを交差してウインチングすることは禁止される。</p>
<p>2.18 ウインチにシートを取る前に、ヘッドセイル・カーヤターニング・ブロックを通す事を省くことは禁止される。</p>
<p>2.19 コンパス、タイマー、時計以外の電子機器を使用することは禁止される。</p>
<p>2.20 ジブを観音開きにするためにスピンポールを使用することは禁止される。</p>
<p>2.21 ハル及びデッキにパーマメント・インクで直接マーキングすることは禁止される。</p>
<p>2.22 スタート信号後、クローズホールドで数秒以上帆走しているとき、メインブームの位置をメイン・トラベラー、メイン・トラベラー・ブロックから出ているメインシートそしてヴァング以外の手段でコントロールすることは禁止される。</p>
<p>2.23 タッキング、ジャイピングまたはパウダウン時の艇の動きを促進させるために、シュラウド(すべてのインナー・シュラウドも含む) のロワー・ボトル・スクリュウ (タンバックル) より上部をつかむことは禁止される。</p>
<p>2.24 削除</p>
<p>2.25 削除</p>

2.26 削除

2.27 メインシートのテークル数を変更してセットすることは禁止される。

2.28 ジブ・シートを1本しか使わず、エンドレスでシーティングすることは禁止される。

2.29 SI C2.1.22および2.1.23の違反は、艇による抗議の対象とはならない。RRS C8.2に従ってアンパイアによる処置に属する。(この項はRRS C6.2とC8.2を変更している。)

3 容認されるアイテム(品目)と行為

以下の項目は許される。

3.1 以下の装備を積み込むこと。

- (a) 基本的な手動工具
- (b) 粘着テープ
- (c) ライン(直径4mm以下の弾性のあるものまたはそれ以外のもの)
- (d) マーキング・ペン
- (e) テルテール用の素材
- (f) 時計、タイマー、ハンドヘルド・コンパス
- (g) シャックル、クレビス・ピン、割りピン、リング・ピン
- (h) ベルクロ・テープ
- (i) ポースンチェア
- (j) セイル・リペア・キット
- (k) 予備の8インチ・ウインチハンドル(最大2本まで)
- (l) 予備の信号旗
- (m) 船底に引っかかった藻やごみを取るための道具。この道具は4m以内のロッド、あるいはそのロッドに4m以内のロープを組み合わせたものに限る。この道具はその目的以外に使用してはならない。

3.2 以下のために3.1の装備を用いること。

- (a) ライン、セイル、シートの汚れの予防。
- (b) テルテールの取り付け。
- (c) セイルの損傷または艇外への落下の防止。
- (d) セッティングをコントロールするためのマーキング。
- (e) 小補修の実施と許された調整のため。
- (f) RRS C6に定められた信号を発するため。

3.3 スピネーカー・シートキャッチャーの固定。ただし、艇長より100mm以上伸ばさないこと。また、除去後の修理を必要としないこと。

3.4 削除

4 義務であるアイテム(品目)と行為

以下の項目は義務である。

4.1 たとえダメージがなく、すでにロスが記録されている場合でも、毎レース日、艇を離れる前に書面によるコンディション・レポートをRCに提出しなければならない。レポートにはダメージの原因であったらう点や今後のマッチに及ぼすたらう影響も含めなければならない。他艇との接触によるダメージがあった場合は、コンディション・レポートの他に、SI 18.2項の要請によるダメージ・レポートを提出しなければならない。

4.2 各レース日の終わりに、

- (a) ダメージがなければ、セイルをバッグに入れキャビン内に収納すること。
- (b) その日最初に艇に乗り込んだときと同様にきれいに清掃して艇を離れること。
- (c) バックステイのテンションを緩めること。
- (d) バッテリー・スイッチをOFFにすること。
- (e) チェック・リスト(アペンディックスD)に従って備品をチェックすること。

4.3 レース最終日には指定された艇を清掃し(デッキ、キャビン、ハルともに)、すべてのゴミ、テープ、マークを除去すること。その他、艇の後片付けについてRCの指示に従うこと。

4.4 いかなるやり方でも艇の装備の変更要求は書面で行い、文面はYES/NOで簡潔に回答できる文章でなければならない。

4.5 停泊・係留場所とレース海面の往復時には、速度制限や航海標識を含む法令に従うこと。

4.6 レース中、エンジン・ギア・レバーは後進の位置に入れておくこと。また、バッテリースイッチは OFF にしておくこと。

4.7 レース中、メインセイルのリーフ・ロープはプリセットしておくこと。

4.7 本項の 4.2 と 4.3 の違反は損傷とみなされ、調整の費用はダメージ・デポジットから差し引かれる。

SI APPENDIX D – Check List of Race Boat

SI アペンディックス D レース艇のチェックリスト

レース・ボートのチェック・リストは最初の艇長会議時に配布されるキー・ケース内にある。

SI APPENDIX E-1

SI 10.3 コースの制限

ローイング中であるとアンカリング中であるにかかわらず、レースエリア内にあるローボートの周囲 10m の範囲内は障害物とみなす。レース中、艇はこの範囲内を帆走してはならない。

